



自然観察

No.117
2016.3月

目次

- ・総会議案書案 2015年度事業報告 2
- 2016年度事業計画(案) 4
- ・連載 嫌われ者～カメムシの世界 (最終回
絶滅が心配される北海道のカメムシ 6
- ・2016年度総会・講演会・懇親会のお知らせ 8
- ・フィールドニュース 9
- ・北海道自然観察協議会創立30周年記念公開シンポジウムアンケート調査結果 . 12
- ・面白く楽しい自然ガイド(3) 樹皮のこと 14
- ・参加者の声 15
- ・事務局だより・連絡 16



庭先の真っ赤なリンゴにありつくヒヨドリ 江別市 2月

総会議案書案2015年度事業報告

1. 観察会実施状況報告について

(1) 一般観察会

2015年度の観察会は、滝野の集いを除き、45開催が予定され、2開催の中止を除き現在(2/11)まで40開催が無事終了しました。

このうち報告書未着および報告書不備の10開催を除く30開催について、集計しましたので概要を報告します。

一般参加者 延べ398人

参加指導員数 延べ118人

最終集計は4月の総会で報告、及び会報118号に掲載します。各観察会の実施状況はその都度会報に掲載しています。

(2) 第26回滝野の自然に親しむ集い(会報115号掲載)

場 所：滝野自然学園

実施日：8月1日(土)～2日(日)

参加料：5,500円

参加者：一般参加者4家族7名(リピーター、3家族)、大人3、子供4名
指導員8名(当日5名、日帰り3名)

2. 第503回自然観察指導員講習会について

日本自然保護協会(NACS-J)と北海道自然観察協議会の共催で開催されました。(会報115号掲載)

テーマ：「大雪山麓で学ぼう、自然の伝え方」

実施日：6月13日(土)～14日(日)

会 場：東川町森林研修センター

宿 泊：キトウシ高原ホテル

受講者：47名(定員40名)

今回、新しい仲間として北海道自然観察協議会へ受講者47名中、31名の方が入会をされました。

3. 北海道自然観察協議会創立30周年記念公開シンポジウムについて

市民はじめ会員など約150名が参加して、北海道自然観察協議会創立30周年記念公開シンポジウムが開催されました。(会報116号掲載)

実施日：11月7日(土)13:00～16:00

会 場：札幌市男女共同参画センターホー

ル(札幌市エルプラザ)

参加者：市民・会員約150名

(1) 基調講演 「1羽の青い鳥から始まった奇跡の地球紀行」(自然写真家 寺沢孝毅氏)

(2) 自然観察指導員の活動報告

札幌「平岡公園人工湿地」からの報告(札幌市どんぐりの会代表 荒井美和子氏)

伊達「火山マイスター(自然観察指導員)は学びと伝えの実践者」からの報告

(洞爺湖有珠火山マイスター 安藤忍氏)

旭川「人と野生生物のかかわりを考える会」からの報告(原田幸枝氏)

(3) パネルディスカッション

テーマ：「自然観察から何が始まる？」

パネラー：寺沢孝毅、安藤 忍、荒井美和子、原田幸枝の各氏

コーディネーター：山本 牧氏(北海道自然観察協議会理事)

4. 2015年全道指導員研修会について

(1) 全道研修会(会報116号掲載)

テーマ：道東の森と湖をめぐる研修会

実施日：9月12日(土)～13日(日)

場 所：津別町のチミケップ湖・癒しの森、弟子屈町の屈斜路湖和琴半島・川湯のアトサヌプリのエゾイソツツジ群落・摩周湖(第1・第3展望台)など

参加者：23名

5. 会報発行について

2015年度発行、会報114号(6/23)、115号

(9/15)、116号(12/15)、117号(16/3/15)計4回

発行、編集部会は、5/26、6/2、6/23、8/25、9/1、9/15、11/24、12/1、12/15、16/2/23、3/1、3/15計12回開催

6. 総会・講演会・懇親会について

(1) 総 会

日 時：4月12日(日)13:00～14:30

会 場：札幌エルプラザ2F

環境研修室1・2

議 事：2014年度事業報告 2014年度会計決算報告・監査報告、2015年度事業計画案、2015年度会計

予算案、その他などの議案が報告・提案され了承されました。

(2) 講演会：15：00～16：00

演 題 防風林と雪虫と～白い妖精・雪虫の生活史について

講 師 山田大邦氏（元札幌医科大学医学部物理学講師）

(3) 懇親会：17：00～19：00

場 所 山わさび北8条店（札幌エルプラザ地下1階）

懇親会では、山田講師を囲み、理事・新会員など13名。

7. 事務局関係について

(1) 理事会：7/1、8/23、10/22、12/8、16/1/19、2/15、4/10 予定 計6回開催

(2) 救急救命講習会

実施日：16年1月16日(土)10：00～16：00

会 場：かでの2・7 10階 1050会議室

講 師：午前・応急処置 日本赤十字北海道支社

午後・AED/心肺蘇生法

(財)札幌市防災協会

冊子代：52円個人負担

受講者：午前の部12名、午後の部9名（江別市1名）

経 費：協会負担額14,044円

救急救命講習会決算報告

収支計＝会計予算12,124円－

支出16,168＝－4,044円

8. 組織の状況について

3月末現在で会員数274名

9. 北海道自然観察協議会のホームページ

観察会予定、観察会報告など随時更新

HPアドレス <http://www.noc-hokkaido.org/>

2015年度2月11日までの観察会の実施は、45件でした。ホームページに報告を掲載したのは、昨年同様21件で丁度半分で、写真の掲載は僅か5件でした。

大多数は文字による報告で、観察会の様子が中々想像できないようです。会の活動を積極的に発信するためにも、観察会終了後に報告と写真を数枚程度観察部に必ずお送りいただくようお願いいたします。

写真は、参加者が含まれる場合は事前に承認を得るようにお願いします。

また観察会のみだけでなく、会主催「総会講演会」、「道庁・植物園」観察会、「滝野の自然に親しむ集い」、「研修会」などの報告と写真は、会の全体を知って頂くようになると思いますので、宜しくお願いします。

10. 観察会の広報について

日本自然保護協会「自然」、北海道新聞、朝日新聞、読売新聞、地元新聞、オントナ、自然ウォッチングセンター「ウォッチングガイド」、★ナビ北海道、北海道環境生活部環境室環境課、札幌市環境局環境都市推進部推進課「えこほろ」、北海道環境サポートセンター・メールニュース環境

11. 他機関との連携、交流について

(1) 講師派遣依頼

各種組織主催の講師の派遣実施

(2) 共催・後援など

各種組織団体との共催・後援を実施

後援：札幌市教育委員会

第26回滝野の自然に親しむ集い

第15回北大校内親子で楽しむ雪の観察会

【備品・分野別ガイド】

☆観察会用品

備 品	数量	保管先
実体顕微鏡 ニコンファール ミニ	2台	横山武彦（江別市） 011-387-4960
タモ網 追い込網	30本 2本	同上
大型旗(120×180)	1枚	池田政明（札幌市） 011-708-6313
小型旗(35×43)	3枚	須田 節（札幌市） 011-752-7217
ポール (折りたたみ式)	3本	同上
トリプル バグビューアー	5台	山形誠一（札幌市） 011-551-5481

観察会に使用したい方は、保管先へ申し込んでください。

☆分野別ガイド

得意分野での疑問や地域情報の問い合わせに回答して下さる方々です。

豊平川水系水生昆虫、魚類

根岸 徹 011-891-0556

〒004-0054 札幌市厚別区厚別中央4条5丁目2-27

昆虫（甲虫）

堀 繁久 011-571-2146
〒005-0832

札幌市南区北の沢2丁目20-18

植物全般

与那覇モトコ 0133-74-7952

〒061-3211 石狩市花川北1条2丁目148
(分野別ガイドとしてご協力頂ける方は、事務局
へ連絡をお願いします。)

総会議案書案2016年度事業計画(案)

1. 観察会の開催について

- 1) 今年度の観察会実施計画は別表の「2016年度自然観察会の予定」の通り、「滝野の集い」を除き34開催が予定されています。(2月11日現在)
今回掲載以外にも企画があれば観察部山形へご連絡下さい。できる限りバックアップしたいと思います。
- 2) 各観察会連絡担当者の方は、観察会一般参加者名簿、指導員用名簿及び16年度観察会予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。
- 3) 観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は観察部会計小川へ送付ください。振り込みを利用する方は、会計(小川)へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。

口座番号：2770-9-34461

(通常払込加入者負担の用紙)

加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

- 4) 観察会の予定及び実施状況は、会報及び北海道自然保護協会のHPでお知らせします。
<http://www.jade.dti.ne.jp/~nchokkai/kansatsu.html>
- 5) 各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力下さい。
また、観察会当日の写真がありましたら、観察部へお送り下さい。
ホームページへ掲載いたします。
- 6) 観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。
- 7) 団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり、一括して指導員派遣の要請を受けていきます。
- 8) 「第27回 滝野の自然に親しむ集い」は、滝野実行委員会(委員長・事務局・編集部・

観察部・研修部各1名選出)と補佐で組織して実施予定です。

- 9) 観察部では備品の充実をはかっていきたいと考えています。また現在保管している備品についても有効な利用法を検討して行きたいと考えています。
- 10) 共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり50円の保険料を協議会へ送ってください。ただし、1泊2日以上は該当しません。

2. 指導員の研修について

- 1) 全道研修会 日時・場所・テーマ未定
- 2) 開催地研修会 日時・場所・テーマ未定
- 3) フォローアップ研修会 日時・場所・テーマ未定
- 4) 救急・救命講習会については、近年AED講習は、職場においても急激に普及してきており、受講者定員の確保は、厳しくなってきておりますので、2016年度は開催しません。今後は指導員講習会開催年度に開催予定とします。

3. 会報発行について

118号(6/15)、119号(9/15)、120号(12/15)、121号(17/3/15)年4回発行予定
また、事務局ほか各部などの原稿の最終締め切りは発行日の45日前とします。

4. 第27回滝野の自然に親しむ集いについて

開催日：7月23日(土)～24日(日)
場 所：札幌市南区滝野自然学園・滝野すずらん公園

5. 2016年度総会・講演会・懇親会

<総会>

開催日時：4月10日(日)13:00～14:30
会 場：札幌エルプラザ 2階 環境研修室1・2
受 付：12:30 総会開始13:00

<講演会> (総会に引き続いて、同じ会場で開催)

開催日時: 4月10日(日) 15:00~16:45
場所: 札幌エルプラザ 2階 環境研修室1・2

演題: 「キノコの話いろいろ~北海道のキノコ 自然界における役割~」(仮題)

講師: 干場 敏博氏(酪農学園大学教職センター特任教授)

<懇親会> (総会終了後、17:30~19:30)

会場: 大庄水産札幌・読売北海道ビル店(札幌大丸店向、中央区北4条西4-1)
電話 011-231-0502

会費: 3,500円

6. 保険について

共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり50円の保険料を協議会へ送って下さい。但し、1泊2日以降は該当しません。

【観察会事故緊急連絡】

事務局へ連絡をお願いします。

保険会社(代理店): ケイティエス 本間茂
電話 011-873-2655 日曜、祝日休業
普通傷害保険 (エース損害保険株式会社)
死亡保険 : 600万円
入院保険金額: 5,000円(180日以内) 日額
通院保険金額: 2,500円(90日以内) 日額

7. 事務局関係について

1) 理事会

6月、8月、10月、2017年1月、2月、4月の年6回開催予定

2) 各地域の活動の状況や課題などをお知らせいただき、会員がより活動しやすい体制を作り、活動を支援して行きたいと思えます。

また、会員各位から寄せられた事業及び観察会の予定や実施状況は、会報及び当会のHPでお知らせします。

3) 個人情報保護法について

北海道自然観察協議会では、個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法の趣旨に基づき、入手した個人情報は、観察活動の目的以外には利用しません。

また、保有する個人データは適正に取扱い、第三者に提供することはありません。会員各位に置かれましても、個人情報の取り扱いには留意され、特に、会員名簿は外部に流失しないようにお願いします。

4) 講師派遣依頼について

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。

5) 観察会カードについて

20周年記念事業の一つとして作成した「観察会カード」の無料配布(送料発注者負担)を継続中です。希望の方は事務局へ連絡をお願いします。

指導員発刊の冊子のご案内

谷口勇五郎さん発刊

「自然観察」

(B5版 61P)

本会報で連載を続けているお馴染みの苦小牧市の谷口勇五郎さんが、このほど第3弾とも言えるべき「自然観察」をまとめられました。

2010年発刊した「虫と自然ガイド」並びに2012年の「自然の観察」(虫以外の動物・植物等)に続いての3冊目となります。

今回は前回同様、動植物はもろろんのこと、自然観察会を通じての感じたことなどが失敗談も含めて紹介されています。ご希望の方には実費頒布の300円(送料200円)で配布することです。希望者は直接谷口さんの所へ。

電話・fax 011444738912

自然観察



連載 嫌われ者～カメムシの世界 (最終回) 絶滅が心配される北海道のカメムシ

小樽総合博物館 学芸員 山本 亜生

この連載では北海道に暮らすさまざまなカメムシを紹介してきました。最後になりますが、今回は北海道のカメムシの中でいわゆる「レッドデータ種」に指定されているものについて取り上げたいと思います。

絶滅のおそれがある生物のリストであるレッドリスト、それを元により詳しい情報を取りまとめたレッドデータブックは日本では環境省と都道府県などが作成しています。2012年に公表された環境省のレッドリストでは868種、

2001年に作成された北海道レッドデータブックでは、430種の昆虫がリストアップされています。

表1は環境省レッドリスト、北海道レッドデータブックに掲載されているカメムシ類から、北海道で記録のある22種を抜き出したものです。

表1. レッドリスト・レッドデータブックに掲載されている北海道に分布するカメムシ類

	科	和名	環境省 第4次レッドリスト 2012	北海道 レッドデータブック 2001	主な生息環境
1	コオイムシ科	コオイムシ	NT		水辺
2		オオコオイムシ		R	水辺
3		タガメ	VU	Cr	水辺
4	ミズムシ科	ミゾナシミズムシ	NT		水辺
5		テシマミズムシ	DD		水辺
6	アメンボ科	ババアメンボ	NT	N	水辺
7		エサキアメンボ	NT	R	水辺
8	ミズギワカメムシ科	オオミズギワカメムシ		R	水辺
9		ヒラタミズギワカメムシ		N	水辺
10		ヒメミズギワカメムシ	NT	R	水辺
11	ゲンバイムシ科	ヒラシママルゲンバイ		R	森林
12	フタガタカメムシ科	キタフタガタカメムシ		R	森林
13	カスミカメムシ科	ダルマカメムシ		Vu	里山
14		ハイマツトビカスミカメ		R	高山
15		リングクロカスミカメ	NT		里山
16		ムモンナガカスミカメ		R	草原
17		クロスジオアオカスミカメ		R	草原
18	マキバサシガメ科	ツマグロマキバサシガメ	NT	N	水辺
19	ハナカメムシ科	オオクロハナカメムシ		R	森林
20	ヒラタカメムシ科	カバヒラタカメムシ	DD		森林
21		ヤセオオヒラタカメムシ	NT		森林
22	ヒョウタンナガカメムシ科	ハマベナガカメムシ	NT		海岸

環境省レッドリスト・カテゴリー VU: 絶滅危惧Ⅱ類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足
北海道レッドデータブック・カテゴリー Cr: 絶滅危機種 Vu: 絶滅危急種 R: 希少種 N: 留意種

高山のハイマツ帯にすむハイマツトビカスミカメや深い森の苔の間にすむヒラシママルゲンバイ（図 1）など特殊な環境にすむものもありますが、実はこれらの多くは水辺や里山など私達の生活圏に比較的近い場所にすむものです。皆さんの通り慣れたフィールドにも、このような希少なカメムシたちが、人知れず息づいているかもしれません。



図 1 ヒラシママルゲンバイ。小樽市産

水辺の希少カメムシ

表の 22 種のうち半数の 11 種が、湿原や湖沼、湿性の草原など水辺を生息環境とする種です。開発による生息地の消失や農薬の影響、外来種の増加によって多くの水辺の生物が絶滅の危機にあると考えられています。カメムシ類も例外ではないことが、この表からも見て取れます。

チシマミズムシやヒラタミズギワカメムシは道北や道東の限られた湿原に生息する種ですが、コオイムシ類やエサキアメンボ、ババアメンボ、オオミズギワカメムシ（図 2）は河口や氾濫原などの低湿地に生息するカメムシで、分布域は広く、かつては普通に見られた昆虫だったのかもしれませんが。



図 2 ヨシの根際にすむオオミズギワカメムシ。小樽市銭函で撮影

タガメは体長 60mm を超える日本最大の水生昆虫で、昆虫にあまり詳しくない方でも名前は耳にしたことがあるのではないかと思います。もともと北海道ではタガメは非常にまれな昆虫で、採集記録は過去にわずか 3 例（厚真町、苫小牧市、厚沢部町）しかありません。

情報が少ないため、現在北海道でタガメがどこにどのくらい生息しているのか全くわかっていません。しかし、もともと少ない昆虫が危機的な状態にあることは明らかで、北海

道の昆虫の中でも特に絶滅に近い状況にあると言えます。

北海道のタガメを保護するためには生息情報の収集が急がれます。タガメは光に強く誘引される習性があるので、外灯の下を探すのが効果的な採集方法だと言われており、調査には有効な手段です。しかし一方で、光に寄せられた個体が車に轢かれたり、鳥に捕食されたりしたことがタガメの減少に拍車をかけたとも考えられています。

里山の希少カメムシ

日本では近年、手付かずの原生林よりも市街地と山林の間にあるいわゆる「里山」に絶滅が懸念される生物が集中していることがわかっています。里山を構成する雑木林や野原、ため池などは、人の手入れによって維持されてきた環境でしたが、社会の変化によって管理が十分に行われなくなり、その姿は急激に変わってしまいました。そこで暮らしてきた多くの生物が絶滅に追い込まれているのです。

北海道のカメムシで、これに該当するのがリングクロカスミカメとダルマカメムシ（図 3）の 2 種です。リングクロカスミカメは体長 3 mm 程の小型のカメムシで、明治時代にはリンゴの害虫として有名でしたが、農薬によって農耕地から姿を消しました。自然の中では里山のフジやバラ類の上で暮らしているようですが、限られた場所からしか見つかっておらず、詳しい現状ははっきりしません。



図 3 ダルマカメムシ 砂川市産

ダルマカメムシも体長 3 mm 程しかないカメムシで、目が大きく寸詰まりの体型が名前の由来です。ダルマカメムシも原生林にはすまない典型的な里山種で、公園の植栽や街路樹でかつてはごく普通に見られたようです。

しかし、現在は全国的にきわめて数が少なくなっています。

ダルマカメムシは樹木の幹をすみかとするため、葉や枝の上で暮らす昆虫と比べて採集が難しい昆虫です。そのため実際にどのくらい絶滅の危機が迫っているのか十分に状況がわかっていません。

ダルマカメムシの餌は、少し弱った樹の幹に貝殻のように張り付いているカイガラムシという昆虫です。ダルマカメムシを見つけるためには、カイガラムシのついているナナカマドやイチイなどを根気よく調べる必要があります。公園や道端でカイガラムシの多い樹を見たらぜひ探してみてください。

評価が不十分なカメムシが多く残されている

甲虫や蝶・蛾などと比べてカメムシ類は種数の割にレッドデータ種が多くありません。これは絶滅のおそれが少ないということではなく、絶滅のリスクを評価するための十分な情報が不足している状況を表しています。

北海道ではこれまでに400種以上のカメムシが確認されていますが、その大部分は分布

や個体数などが詳しくわかっておらず、生態についても不明なものがほとんどです。まだ見つかっていない種も少なく無いと考えられます。

保護すべき希少な生物が、誰にも知られることなく絶滅していくようなことは避けなければなりません。北海道のカメムシについてはその情報をもっと充実し、多くの種について現在の状況が評価されることが今後の課題だと思います。

そのためには昆虫、そしてカメムシという生き物に関心に向けてくれる方がもっと増えることが重要です。この連載がその一つのきっかけになれば幸いです。

2016年度総会・講演会・懇親会のお知らせ

《総会》日時：2016年4月10日（日）13:00～14:30

場所：札幌エルプラザ環境研修室1・2（札幌市中央区北8西3）

議事：(1)2015年度事業報告 (2)2015年度決算報告・監査報告 (3)2016年度事業計画案 (4)2016年度予算案 (5)役員改選 (6)その他

《講演会》15:00～16:30（札幌エルプラザ環境研修室1・2）

演題：『キノコの話のいろいろ～北海道のキノコ 自然界における役割～』（仮題）

講師：干場 敏博氏（酪農学園大学教職センター特任教授）

《懇親会》17:00～19:00 場所：大庄水産札幌・読売北海道ビル店]

会費3,500円 ※参加希望者は、4月7日まで事務局池田にご連絡ください。

Tel/Fax 011-708-6313

E-mail ecology@cocoa.ocn.ne.jp



浦河探鳥クラブ 丹波幸二さん宛て
51480118

00円の郵券(送料)を添えて直接、事務局までお申し込みください。

購入希望の方は1000円他に3

記録等が掲載されています。

鳥類の写真をはじめ241種類からなる目録、並びに253種類の月別観察

廣治さん。

編集長は本会の指導員でもある中村

録を発刊しました。

浦河を拠点に2001年から探鳥会活動を行ってきている浦河探鳥クラブが、会発足10周年を記念して標記目録を発刊しました。

自然観察関連冊子のご案内
浦河探鳥クラブ発刊
「浦河鳥類目録」
(A4版・57P)

春を真っ先に感じさせてくれるハルニレの花(春編)

蘭越町 大表 章二

長かった冬が過ぎ、身近に春の到来を実感できる自然現象は何でしょうか？雪の残る山の斜面に咲く純白なコブシの花でしょうか？それとも近くの森から聞こえてくるアカゲラの大きなドラミングでしょうか？虫好きの人なら道端で日向ぼっこをするクジャクチョウやシータテハかもしれません。人それぞれでしょうし、一つに限ったことではないかもしれませんが、私の場合はここ数年、自宅そばのハルニレの花が真っ先に春を感じさせてくれる存在になっています。

自宅南面の傾斜地には生育途上の樹木ばかりの小さな林があり、狭い範囲にイタヤカエデ、ハリギリ、トチノキ、ウワミズザクラなど 10 種ほどの樹がひしめき合っています。それらの中で我が家のそばに陣取り大きくでんと構えているのがハルニレです。年毎に大きくなって枝を伸ばし、どうぞ見てくださいと言わんばかりに窓に近づいてきています。そんな状況ですから、窓に目をやるとすぐにハルニレが目に入ります。

葉芽は硬く閉じたままなのに、花芽は雪解けの進行とともにどんどん膨らんでいきます。いつ花開くか楽しみになって毎日確認するようになります。なんだか浮き浮きした気分になります。老齢化とともに感動することが少なくなった私には若返りの薬に思えます。

目立たないし、咲く時期も早いし、普通なら仰ぎ見ないと目に入らないので、見過ごしてしまうのが当たり前のような花ですが、近くで見るとなかなかどうして見ごたえがあり、春の息吹そのものという気がします。それも当然で周囲にはまだ雪も残っており、周りの木には葉がまだ全然見られないのですから。花のあとに続く新緑もまた絶品です。

ところで、この原稿を書いているうちに、身近な隣人にもかかわらずこれまでハルニレについて知っていることがとても少ないことに気づきました。で、一つ勉強してやろうと考えて、ネットなどで情報を集めてみました。その結果、①町内の森でハルニレを探す。まずは雪の残っている時期にかんじきを履いて歩き回る。②北大植物園のハルニレ三姉妹を観察する。③ハルニレを食草とするカラスシジミの卵を探す。④ハルニレの葉の虫こぶであるハルニレハフクロフシを観察する。どこまでできるかわかりませんが、今年の課題として四つ設定してみました。達成できれば、機会を見つけて報告します。



私のフィールド コムケ

紋別市 今堀 英明

コムケ湖から雲で隠れた斜里岳の右裾に創られた切れ間から3年振りの初日の出、感動しながら今年も安全に自然を楽しめることをお願いした。この処に足繁く通うようになって10年が経ちました。毎年バレンタインの頃に小鳥たちの鳴き声が変わりだし、ハマハタザオの白い花にヒバリが囀り、朝紅に北帰行するオオハクチョウに感動しながら春を感じ、エゾノシシウドをソングポストにして歌うコヨシキリ達夏鳥を楽しみ、サンゴソウに集うシギ・チドリを夕日が温かくつつむ風景、流水の訪れとともに白一色に変わる様をそれぞれ楽しむ心休めるフィールドです。

しかし昨年・昨年とオホーツク海側を襲った爆弾低気圧のため、コムケ沿岸は湖がそう遠くない将来に無くなると想像させるほど浸食され、所によっては道路までえぐり取られてしまいました。

地球温暖化が原因なのか流水の滞在期間が短くなり、波打ち際が目の前になる秋から冬は、ちょっとした時化でも崩壊や海水の流入が起きやすい所に大時化により、ハクサンチドリやエゾゴゼンタチバナ、イワツツジの植生地の一つを奪われてしまいました。

30年以上コムケを観て記録し続けている方が、昨年秋の渡りの際にそれまでオオハクチョウを主に飛来数が最高3000羽だったのが8000羽を越えたと驚きながらも、カモ類が少なすぎるとして水鳥の飛来中継地として素直に喜べないと不安を募らせていました。

環境の変化に敏感な鳥たちです。コムケの環境に著しい変化が起きていないことを願います。これからも人や自然との一期一会の出会いを大切に、外来植物除去などの保全活動を仲間と続けながらラムサール登録湿地をめざして、ハマナスやエゾカワラナデシコなどの多様な在来植物の花園に、命を繋ぎに来る鳥たちの楽園を私達の原風景として伝え残したいのです。



ノンノの森(津別町)周辺のフィールドニュース

津別町 山口 紘司

今回初めての投稿となります。昨年、東川町で行われた自然観察指導員講習会を受講しデビューしたところです。北海道網走郡津別町上里(津別町内より約24km地点)にありますNPO法人「森のこだま」において、副代表理事として活動しております。

森のこだまは、森林セラピー基地である「ノンノの森」の管理及び体験事業、津別峠雲海ツアー、星空観察ツアー等を行っております。私自身の活動としましては、夏季には森林ガイド、蒸留芳香水体験、雲海ガイド、冬季にはスノーシューガイド、一年を通して法人組織運営の一助を担っています。

ノンノの森(周辺)で生息している哺乳類はキタキツネ、エゾタヌキ、エゾシカ、エゾクロテン、エゾリス、エゾシマリス、エゾヒグマ、ネズミ類。鳥類も多数の種類が生息し、ハイタカやクマゲラ、エゾフクロウ等生息。今の時期では18時半~20時にかけて、エゾクロテンを毎日のように観察できます。様々な樹木が樹生しておりますが、樹齢800年のミズナラや、倒木更新が至る所で観察できるのも特徴です。

またノンノの森から数km地点にある津別峠展望台(標高約950m)から見える景色は壮大です。

ここは雲海スポット(6月1日～10月31日まで)にもなっており、早朝であれば比較的高い確率で雲海を観察することができます。眼下には一面の雲海、一部摩周岳等の頂が雲海の上を少し覗かせています。雲海の東方より日の出を見ることもできます。刻々と変化する色彩に注目して観察するのも良いと思います。天気の良い日であればオホーツク海、知床連山、阿寒の山々、大雪山系も鮮明にみることがきます。もちろん自然現象なので展望台が雲の中ということもあります。しかし、観られなかったとしても、次回観られたなら感動は2倍。観られなかった場合は、神様からの「感動予約券」が与えられたということになるでしょう。鳥達の声にも耳を澄まし、雲海と朝陽を眺めながらの珈琲。至福のひと時です。散策後には「森つべつ」の温泉に入るのも良いでしょう。



青葉中央公園の歴史と植物について

札幌市 井内 良彦

厚別区のシンボルである青葉中央公園は、かつては下野幌公園または自然公園と呼ばれ、動植物の種類も多く、区民に広く親しまれてきました。

この地は、公園になる前は、中央部の谷間は水田として利用され、その東側にはかなりの水量の自然流水の用排水路が約3mの幅で流れていました。昭和39年からの5ヶ年計画の団地造成事業と並行して、この地の雑木林の自然を生かし、昆虫や野鳥さらに自然木と人々の触れ合いを深めていくための公園として整備されました。

平成2年には白石区からの分区記念事業として2億円を投入して大幅な公園整備工事が行われ、手前半分にはサッカーなどの運動公園、中央には野外ステージ、遊具広場やウォータースライダーの遊び場なども作られました。

この公園の植物相については、1991年(平成3年)刊行の原松治先生の「札幌の植物」の53調査地点の一つに選ばれ、当時は191種の植物の種が記載されています。

時は移り、今は高齢化や少子化などの新たな問題に悩む青葉町です。公園の自然環境も年々その様子を変化させてきています。公園内のグラウンドの排水をよくするための暗渠が逆に傾斜部の雑木林の樹木の生育を抑え、雑木林類の立ち枯れを起し、林内のけもの道が草本類の生育を阻害してきています。

また樹木林は、大量のカラスの生息地・繁殖地になっています。それに伴って、セミなどの昆虫類やエゾリスなどの小動物も被害を受け、年々その姿を消しつつあります。一昨年は、この公園の自然環境を望ましい方向に維持していくための方法を学ぶために、会館で環境アドバイザーの方をお呼びして講演会を聞きました。

自然観察会は年に数回小学生やお年寄りなどの地域の住民を対象に行っていますが、この公園の歴史がわかる植物や、新しく入ってきたと思われる動植物にも着目して、公園内の植物の変遷を学ぶ視点で行っています。平成2年から25年たった後の植物相を調べる作業も有志で行おうと思っています。昨年は、思いがけないところで、キョスミウツボやツチアケビが3株自生しているのを発見しました。新たな発見がきっとあるはずです。

北海道自然観察協議会創立 30 周年記念公開シンポジウムアンケート調査結果

・回答者数 63 人、・回答率 46.7%(63 人/135 人)

1 会員、非会員、性別・年齢について

・会員・非会員状況

会員 6 人(9.5%)、非会員 48 人(76.2%)、その他(無回答)9 人(14.3%)

・性別状況

男 23 人(36.5%)、女 35 人(55.5%)、その他(無回答)5 人(8.0%)

・年代状況

10 代 3 人(4.7%)、20 代 3 人(4.7%)、30 代 4 人(6.4%)、40 代 3 人(4.7%)、
50 代 8 人(12.8%)、60 代以上 42 人(66.7%)

2 シンポ開催の情報入手先

①案内チラシ 30 人(46.1%)②案内メール 0 人③ホームページ 0 人④新聞記事 7 人(10.7%)

⑤所属団体・児童会館等 11 人(16.9%)⑥知人 15 人(23.1%)⑦その他 2 人(3.2%)

※65 人(複数回答)

3 シンポ参加感想

① 期待以上 28 人(43.1%) ②期待した通り 35 人(53.8%) ③期待以下 0 人

④その他 2 人(3.1%) ※65 人(複数回答) ※寺澤氏講演好評の意見目立つ

4 シンポ内容

・実施時期

① 良かった 43 人(70.4%)②普通 14 人(23.0%)③悪かった 2 人(3.3%)

④特に無し 2 人(3.3%) ※61 人回答

・講演・活動報告・パネルディスカッション

○基調講演：①良かった 59 人(98.3%)②普通 1 人(1.7%)③悪かった 0 人 ※60 人

○活動報告：①良かった 52 人(85.2%)②普通 9 人(14.8%)③悪かった 0 人※61 人回答

○ディスカッション：①良かった 35 人(70.0%)②普通 15 人(30.0%)③悪かった 0 人

※50 人回答

・全体を通して

① 良かった 60 人(96.8%)②普通 2 人(3.2%)③悪かった 0 人 ※62 人回答

・資料展示等

② 良かった 37 人(60.6%)②普通 17 人(27.8%)③悪かった 1 人(1.8%)

③ 特に無し 6 人(9.8%) ※61 人回答

5 講演会参加感想(自由意見)

・楽しかったです。遅れてきた生徒も楽しんでおりました。

・イカナゴやカタクチイワシが不足して、生き物が絶滅するかもしれないことが判り、とても良いお話を聞いて参加して良かったです。パネルシアター判り易かったです。

・次回も参加したいと思った!!

・また機会があったら、参加したいと思います。基調講演、音が高すぎた(迫力を出すためなのか)。

・寺澤氏の迫力ある音、映像による臨場感は説得力があった。今回は幾つかの他団体との行事と重なったせいか、一般参加者が少なかった。日時の決定は難しいのだが、何か設定方法を考えたらどうか。

・寺澤さんの講演楽しみに参加しました。大変、楽しく聞くことができました。

・活動を通しての一般参加者の方が多く、嬉しかった。

・それぞれの立場での皆様方の頑張りが目に見えるようでした。たくさんの方が問題があることを実感しました。(音量が少し気になりました。)

・昨年天売島に行き、寺澤さんの所に寄り話を聞きたかった。とても良い話でした。

・自然資源保護の大切さを改めてかんがえさせられた。

- 基調講演は、話もさることながら、映像、音もあり、迫力あり大変良かった。
- ・協議会の存在はじめて知りました。
 - ・自然を観る、伝える、パネルディスカッションで意見が大変、良かったです。
これからのボランティア活動に、ためになる意見を聞いて良かったです。
 - ・地球は人間だけのものではない。小さなことから一人一人の努力が必要、改めて思いました。
 - ・移動式イスの並べ方が、一列に真っ直ぐなので、前の人の頭でスライドの下の文字が見えづらかった。
 - ・初めて参加です。もう少し関心を持たなければならないと感じました。
 - ・いろいろな方がそれぞれの立場でできること、伝えられることをここまで熱心にされていることを知り、自分にできることはなんだろうかと考えました。
何もしなければ、自然を消費するだけで地球に対して唾を吐くような人間に終わってしまう気がしました。
 - ・寺澤さんの講演方法は、とても新鮮だった。!!
 - ・チラシでこの会のことを知ったが、非常に興味を持った。これからホームページを見せて頂き、情報を知っていこうと思う。
 - ・今日はありがとうございました。とくに最初の寺澤さんのお話は、将来について視界が開ける思いがしました。研究に対しても、やっぱりフィールドが大切かもしれない、また自己満足じゃなく、環境について深く考えるような現状を知るようなものにしたい。今日感じ得た知識を是非、生かしたいです。その一環として自分の住んでいる場所で荒井さんが行っているような自然に触れるイベントが無いのか調べてみたいです。
 - ・自然環境に関わる人々、自然を伝えていく人々、様々な活動や心境について詳しく知ることができた。よりよい環境づくりのためには、自分も何かできないかを考えさせられるものだと感じた。
 - ・いろいろ勉強になりました。自然との共生、自分なりにもっと考えてみたいと思います。
 - ・寺澤さんのことは何となく知っていたと思っていましたが、今日の講演で素晴らしい活動をされていることの多くを知り、感動しました。原田さんグループのパネルシアターを直近で鑑賞したいです。
 - ・参加型の自然に対する想いを共有することが大事だと感じた。寺澤先生の撮る、音入れ、行動など臨場感ある伝え方には感動しました。
 - ・仲間もいたので楽しかった。
 - ・寺澤さんの講演は素晴らしかった。また機会があれば聞きたい。本当に自然を守りたい心情がひしひしと感じられました。
 - ・野鳥についての話をもっと聞きたかった。
 - ・寺澤さんの講演、映像素晴らしかったです。
 - ・とても興味深いことが多かった。次にこのシンポジウムが開かれたら、また来たい。
 - ・全体的に大変、工夫された発表で、内容も濃くとても素晴らしかったです。
今まで知らなかった活動や、環境についても知ることができ、興味を持つことができました。それから人に伝えるということは、どういうことなのか、自分が今回感じたことや、ディスカッションから改めて確認することができました。
 - ・寺澤さんはじめ皆さんの活動、協議会の活動について詳しく知り、興味深く思いました。ありがとうございました。
 - ・寺澤さんのダイナミックな画像、お話に感銘を受けました。また各パネリストの事例が聞いて良かったです。
 - ・北極の生き物、自然の映像、説明を聞きいろいろ考えさせられました。活動報告もそれぞれ判り易く良かったです。
 - ・今後も自然環境に関心を持ち、保全活動で実践していきたいと思っています。(非会員)
 - ・寺澤さんの意識を持った視点の映像は、まっすぐで素晴らしい。シンポジウム式次第に時間を入れると、良いのではないかと。
 - ・それぞれの方の自然に対する姿勢が伝わってきて良かったです。
 - ・鳥が好きで参加できて良かったです。
 - ・今後も自然観察、勉強に励みたいと思います。
 - ・天売島の旅がよみがえりました。カナダの氷河を歩いてきて、とても嬉しかったです。(80歳)

- ・経験、観察体験によるシンポ、大変良かった。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・身近な所からグローバルへと感じていけるように努力していきたいと思います。

(む)

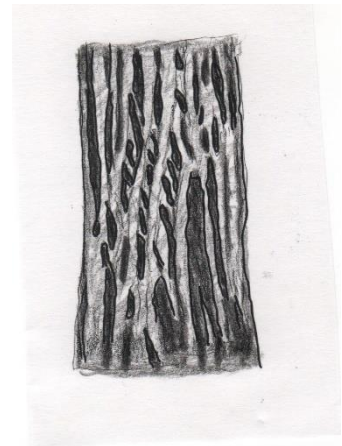
面白く楽しい自然ガイド(3)

樹皮のこと

谷口 勇五郎

12月6日、高丘森林公園(苫小牧)で、某会の観察会がありました。駐車場脇に植わっているマツから案内が始まりました。クロマツは苫小牧市の街路樹では2番目に多く、公害にも強いのでしょう。本州方面の海岸に生え、三保の松原には、天女が羽衣を掛けたという3代目のクロマツがありました。ちなみに、1番目は市の木であるナナカマドです。

遊歩道を登り始めると、直径50cm程で、上の方が折れている木を指し「あの木は何？」の質問がありました。幹を上の方に見ていくものの、高いので冬芽はよく見えません。その木の2m向こうに同じような樹皮をした直径30cm程の木が立っていました。上の方を見ていくと、果実があり、ハリギリです。手前の太い方も「後ろのものと同じ、ハリギリだよ」と言おうか迷っていると、Aさん(元林業関係職員)が「ドロノキじゃないか」という。ドロノキは大木になると、下



の方は黒っぽく縦に裂け目ができ、上の方は滑らかで灰色です。この大木は滑らかで灰色の部分の半分ほどが折れていたのです。上にある冬芽も落ち着いてよく見ると、先が尖りドロノキのものでした。

樹木の同定(種名を決める)には、葉・花・果実・冬芽や樹皮等を調べます。落葉広葉樹はこの時季になると葉・花はありません。冬芽はありますが葉よりずっと小さく、しかも、果実と同じように枝先にあります。間近にあるものは樹皮です。ところがサクラやキハダなどを除けば、よく似ているものがあり、更に、同じ種類でも若木・成木・老木のように生育の段階により異なります。林業関係の仕事を経験された方は、樹皮の微妙な違いが判るように思います。文一総合出版の『樹皮ハンドブック』や、鮫島淳一郎先生の『北海道の樹木』などには樹皮の写真が載っています。しかし、私のようにその方面の経験がない者には、樹皮のみでの判断は大変難しいので、急いで、冬芽を探すしかありません。

少し進むと、樹皮の白い、直径20cmの木がありました。「この木は何だと思います？」と皆に質問しました。ダケカンバだ、シラカンバじゃないかの声。そこは標高30mぐらいで、両者が生えているところです。理由を聞くとダケカンバの枝は白いのでという。確かにダケカンバやウダイカンバの枝は白いです。シラカンバの枝は黒っぽく、枝の取れた痕は幹に黒い「へ」の字模様が付き、幹は白色(たまに、クリーム色も)です。ダケカンバの幹の樹皮はだいたいクリーム色です。質問した木の幹は白く、枝は白、黒い「へ」の字があるので、シラカンバじゃないかとなりました。更に、ウダイカンバの幹は灰色で、横長の皮目、枝は太く白になると、頭が少し混乱してきます。本州方面から来る人はシラカンバに憧れています。白い木を見ればシラカンバと思い感激します。支笏湖の湖面の標高は250mですので、紋別岳の登山口からはシラカンバは見られず、ダケカンバと下の方ではウダイカンバもあります。シラカンバでないと聞き残念がります。標高1,200mの戸隠高原(長野県)で見た枝の白い樹木を、同行のホテルマンに「これはダケカンバですよ」と自慢げに教えました。その後、一人で散策している時、手の届くところに葉があったので、よく見るとシラカンバのものでした。中部山岳地帯では、標高1,500m以上にダケカンバがあり、それ以下にはシラカンバが生育しているといえます。苫小牧辺りで、白い木を見ると、頭をひねることがよくあります。

しばらくして、目の前にある直径 40cm の木は何かと聞かれました。「・・・」。全く見当が付きません。すると、A さんは「イタヤカエデだよ」という。樹冠は遠いのですが、双眼鏡でじっくり見れば、小枝が十字形（対生）に出たイタヤカエデの冬芽が判ったかも知れません。その老木の樹皮は黒っぽく、縦に割れ目（成木では滑らか）ができています。すぐ答えが出ないと、つい慌ててしまいます。その意味でも下見は肝心です。この時季の観察会ではガイドの力量の程度が明らかにされてしまいます。そうした機会を避けずに、地道な精進が必要と思いました。



参加者の声



当別町 北海道医療大学 2015/5/9

早坂 喜子

自然観察会へは、今回で2回目の参加でした。昨年、友人に誘われて、この医療大学を見学させていただきました。今まで、自然の中でお花など見る機会はほとんどなかったので、本当に新鮮な経験でした。堀田先生のポストカード等も買わせていただき、自宅の玄関などに飾っています。（大パネルにもなっていたカタクリの写真です。）

今年は、次男の誕生日と重なり、行けないか

も思っていました。なんとか参加させていただく事ができました。桜が例年より早く開花した様に、ここも春が早く訪れて、残念ながらカタクリの花を見る事ができませんでした。

しかし、緑色の花の二輪草や、ヒトリシズカは美しかったです。かわいらしい鳥の声も、聞きました。そして何より自然の中にある美しい花を知って、私の世界が広がりました。皆様この様な機会をありがとうございました。

小樽市 長橋なえぼ公園 2015/10/25

千葉 藤枝

先日は大変お世話になり、ありがとうございます。寒かったのですが、楽しかったです。

孫も喜んでおりました。来春暖かくなったら又参加したいと思います。

札幌市 北大研究林自然観察会 2016/1/10

小林 政文

新春の1月10日、北大研究林自然観察会が開催された。天候にも恵まれ、3連休であったこともあり、子供たちを含み30名を超える参加者が集まった。2グループに分かれ、約2時間自然と触れ合った。寒さの厳しい林の中でも鳥や動物たち、木々がしっかり活動しているのを観察することができた。動物たちを直接見ることはできなかったが、雪に残った足跡やフンを見つけ、動物たちの活動を実感し

た。またガイドさんの説明で、エゾシカが残した足跡やフンから雌雄が分かれると聞き、とてもびっくりし勉強になった。木々は既に発芽や開花の準備を進めており、花や葉が、ギッシリ詰まって固く形成されたキタコブシやハウノキの花芽、葉芽を観察し、春を待ちわび、実をぎゅっと引き締め、寒さに耐えていることを知った。穏やかな天候のもと、心身のリフレッシュもできたひとときであった。

会計からのお知らせ

— 当会の活動は皆様の会費で運営されています —

宛名シールに2月末までの会費の納入状況を記載しました。今年度までの会費の納入がお済みでない方は、振り込み用紙を同封しましたので、至急、会費の納入をお願いします。なお、27年度をもって退会される方は、27年度までの会費を納入の上、事務局または会計担当までご連絡下さい。

※27年度から会費が値上げされました。個人会員は1,500円→2,000円、家族会員は2人目からお一人につき1,500円プラスされ、2人家族は3,500円、3人家族は5,000円になります。家族会員の場合は、同一世帯であることが必要です。

郵便振替口座 02710-1-8768

会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 会計 三澤 英一



☆本協議会の総会がご案内の通り、来る4月10日(日)、午後1時から札幌エルプラザで行われます。また総会終了後の講演会では、キノコの話を用意しています。是非ともご参加の程をお願い申し上げます。

☆部会活動参加へのご協力をお願い!!

本会には、ご承知のように現在、観察部と編集部の2部が設置されています。今後、以前に設置していた研修部も再度、設置し直していく予定です。既存の各部については、限られた人数の中で、それなりの努力、創意工夫等を行っていますが、会員の皆様の期待に応えて行くためにも充実強化が必要と考えております。このことは、設置し直す研修部についても同様のことが言えます。

先般開催された理事会で協議した結果、会員の皆様方の積極的なご参加・ご協力・支援の下で進めていくことになりました。つきましては、かかる趣旨にご理解頂きますとともに、合わせて改めて各部の活動強化に向けてのご協力・ご支援いただきますようお願い申し上げますとともに、別添の「部会活動希望調べ」を送付しますので、参加協力できる部会活動を選択の上、恐縮ですが、本会事務局(池田)までご提出くださいますよう宜しくお願い致します。(む)

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768 振込加入者名北海道自然観察協議会

会計 三澤 英一 061-1136 北広島市松葉町5丁目9-16

TEL 011-372-0745 E-mail qqyn8ppd@space.ocn.ne.jp

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 047-0155 小樽市望洋台3-13-5

TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観察部 山形 誠一 064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14

TEL/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

退会・住所変更連絡は 事務局 池田 政明 001-0045 札幌市北区麻生町4丁目9-16

TEL/Fax 011-708-6313 E-mail ecology@cocoa.ocn.ne.jp

事故発成等緊急時は ケイティエス 担当 本間 茂 TEL 011-873-2655

投稿や原稿は 編集部 村元 健治 006-0852 札幌市手稲区星置2-8-30

TEL 011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2016年 3月15日/第117号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)

発行 北海道自然観察協議会

編集 北海道自然観察協議会編集部